

高森町史 上巻 目次

目 次

序

序 説

第一編 原 始

第一章 繩文期以前 一〇

第二章 繩文式時代 一七

第一節 高森の繩文式土器 一七

一 高森の繩文式土器出土表 一七

二 早期繩文式土器 一七

三 前期繩文式土器 一七

四 中期繩文式土器 一七

五 後期繩文式土器 一七

六 晚期繩文式土器 一七

七 高森出土の土偶 一七

第二節 高森の繩文式石器 六九

一 高森の繩文式石器出土表 六九

二 高森の繩文式石器概観 六九

一 石 六九

二 石鎌・石槍 六九

三 石 六九

四 凹石・石皿 六九

五 石匙その他 六九

第三節 繩文時代の住居址 一八

一 堅穴式住居 一八

二 高森の繩文式住居址 一八

一 小原住居址 一八

二 渡瀬住居址 一八

三 月夜平住居址 一八

第四節 繩文時代人	八	第三編 第四章 古墳時代の文化	二
一 繩文人の生活	六	第一節 古墳の概観	一
(+) 道具を作る	六	第二編 上 古 (1)	一
(=) 手の働き	六		
第三章 弥生式時代	一		
第一節 高森の弥生式遺物	一		
二 高森未発見の遺物	一		
(+) 金属器	一		
(=) 木製具	一		
第二節 弥生式土器	一		
一 北原式	一		
第二編 上 古 (1)	一		
第四節 繩文時代の古墳	一		
第一節 古墳の種別	一		
第二節 高森の古墳	一		
第三節 弥生式石器	一		
一 農具としての石器	一		
(+) 鍔形石斧	一		
(=) 石包丁	一		
二 工具としての石器	一		
三 利器としての石器	一		
四 什器としての石器	一		
第五節 弥生時代の住居址	一		
一 唐沢原住居址	一		
二 月夜平住居址	一		
第六節 弥生時代人	一		
一 弥生人の生活	一		
第七節 唐沢原式	一		
一 石室	一		
二 遺物	一		
三 土師器・須恵器	一		
四	一		

一 高森の古墳一覧表	元
二 下伊那の古墳概観	元
三 市田の古墳	元
(一) 煙中の塚	元
(二) 秋葉塔の塚	元
1 主な遺物	元
(三) 其他特記すべき古墳	元
1 田屋の塚	元
2 北林第二号墳	元
3 塚田第一号墳	元
(四) 特記すべき出土遺物など	元
1 珠文鏡	元
2 簪	元
3 人骨	元
4 古墳の濠	元
第三節 古墳の歴史的背景	元
一 大和国家の成立	元
(一) 小国家の分立	元
上 古 (2)	元

第五章 奈良時代の地方民	元
上 古 (2)	元

第一節 伊那の郡家	元
上 古 (2)	元

第四節 土師式住居址	元
一 ヨシガタ住居址	元
二 北原住居址	元
第五節 古墳時代人の生活	元
一 住居内の生活	元
二 生業	元
三 貵族の姿	元
四 馬の飼養	元
第六節 山吹市田の古墳中間地帶	元

第一節 伊那の郡家	元
上 古 (2)	元
第三節 古墳の歴史的背景	元
一 大和国家の成立	元
(一) 小国家の分立	元
上 古 (2)	元

第二節 律令制度と地方民	一 久米路橋
(+) 人口	二 駅は下段地帶
二 口分田	三 賢錐駅
三条里制	四 馬
四 人民の負担	五 真毛駅
(+) 租	六 岩毛駅
(+) 調・庸	七 岩毛駅
第六章 平安時代の伊那地方	八 岩毛駅

第一節 麻績郷

一 伊那の五郷	一 伊那の五郷
二 麻績郷の区域と戸口	二 麻績郷の区域と戸口
三 生産業	三 生産業
四 農民の生活	四 農民の生活
第二節 古社と古寺	一 伊那の五郷
一 式内社・式外社	二 麻績郷の区域と戸口
二 寂光寺	三 生産業
第三節 東山道	四 農民の生活
一 伊那郡の駅	一 伊那の五郷
(+) 育良駅	二 麻績郷の区域と戸口
(+) 育良駅	三 生産業
(+) 育良駅	四 農民の生活

四 高森の東山道	1 久米路橋
(+) 古市場より洞まで	2 駅は下段地帶
(+) 洞より銚子洞まで	3 賢錐駅
(+) 銚子ヶ洞より間ヶ沢まで	4 馬
(+) 間ヶ沢より萩山神社前まで	5 真毛駅
(+) 萩山神社以北の二古道	6 岩毛駅
(+) 上段古道説	7 岩毛駅
(+) 下段古道説	8 岩毛駅
1 萩山神社より唐沢原まで	9 岩毛駅
2 唐沢原より大島川まで	10 岩毛駅
3 大島川より胡麻目沢まで	11 岩毛駅
4 胡麻目沢より出原まで	12 岩毛駅
5 上段説に対する疑問	13 岩毛駅
6 清東より胡麻目沢まで	14 岩毛駅
7 胡麻目沢より田沢川まで	15 岩毛駅
8 田沢川より寺沢川まで	16 岩毛駅
9 八日市場より駒場へ	17 岩毛駅
10 八日市場より上平へ	18 岩毛駅

7 小沼経由の道筋.....	三 下伊那の莊園.....
(八) 高森の東山道—結語.....	四 郡戸の庄.....
(附) 市場・市石.....	四 庄の境域.....
	四 郡戸庄の本家.....
第四節 郡戸の庄.....	四 郡戸庄の地頭.....
一 土地制度の崩壊.....	五 平安文化と郡戸庄.....
二 莊園の發生.....	五 郡戸庄の本家.....
	五 郡戸庄の地頭.....
	五 平安文化と郡戸庄.....
第七章 武士の興起.....	一 章
第一節 武士の發生.....	一 章
一 主従の結合・武芸の練磨.....	一 章
第二節 伊那郡の武士.....	一 章
	一 章
第八章 松岡氏の出世.....	一 章
第一節 松岡氏の出自.....	一 章
一 安倍貞任の裔.....	一 章
二 安倍氏後裔の異説.....	一 章
第二節 松岡氏の初祖.....	一 章
第三節 松岡氏の初祖.....	一 章
第九章 瑞璃寺の開創.....	一 章
第一節 瑞璃寺の縁起.....	一 章
一 瑞璃寺の縁起書.....	一 章
第二節 創建当初の瑞璃寺.....	一 章
一 寺地堂所.....	一 章
二 医王の靈應.....	一 章
第三節 本尊及其他の仏像.....	一 章

一 本尊薬師三尊	一
(+) 新納・市村両氏の解説	二
二 観音・地蔵の二藤原仏	三
	四
第四節 坂本に移転改築	五
第五節 源頼朝の外護	六
第六章 松岡氏の興隆	七
第一節 鎌倉時代伊那郡の形勢	八
第二節 松岡氏の世系	九
一 松岡氏に関する史書・史料	一〇
二 松岡氏の遺した史料	一一
三 譜代の人々	一二
(+) 人名の原拠	一三
(+) 松岡氏の人々	一四
第三節 松岡氏の鎌倉勤仕	一五
一 弓馬の道	一六
(+) 信濃武人の射芸	一七
二 松岡氏の射芸	一八
(+) 弓始の射手	一九
(+) 松岡民の弓道練磨	二〇
第四節 建御名方神勅請	二一
一 本尊薬師三尊	一
(+) 新納・市村両氏の解説	二
二 観音・地蔵の二藤原仏	三
	四
第四節 坂本に移転改築	五
第五節 源頼朝の外護	六
第六章 松岡氏の興隆	七
第一節 最初の居館	八
第二節 松岡城構築の年代	九
一 初祖築城説	一〇
二 市村氏の説	一一
三 南北争乱と築城	一二
四 吉野時代の構築	一三
(+) 松岡氏の経済力	一四
(+) 小笠原氏との提携	一五
第三節 松岡城の構造	一六
一 本城の概観	一七
二 本丸	一八
三 二の丸	一九
四 三の丸	二〇
五 納構	二一
六 遺跡	二二
(+) 古城・お家塚	二三
(+) 城下町の跡	二四
(+) お化粧水・檜の井	二五

七要 約

松岡城址の図

第四節 支 城

一 松岡南城

(+) 特異な構造

丸

(附) 二 古御家

丸

(+) 北曲輪

丸

第五節 属 城

一 城 山

丸

(+) 本 丸

丸

(+) 二の丸

丸

二 本城・古城・南城

丸

(+) 本 城

丸

3 2 1 本 丸

丸

(+) 古 城

丸

(+) 南 城

丸

四 坂牧城
五 原ノ城
六 上野本城
(+) 南本城

第十二章 安養寺の開創

第一節 鎌倉期の新仏教

一 禅宗と武士

丸

第二節 安養寺の創建

一 安養寺記

丸

第三節 開基道山心公

一 松岡城主伊予守貞景

丸

二 宝篋印塔

丸

第四節 開山古鏡明千

一 清拙正澄に師事

丸

二 百丈清規の印行

丸

第五節 三宝荒神の勧請

一 安養寺の守護神

丸

二 故荒神・今荒神

丸

三次郎城

丸

第六節 五部大経の出版	三五	一 松岡騎馬附覚	三三
第七節 梵鐘の鋳造	三六	第五節 松岡氏配下の諸族	三三
一 梵鐘の銘文	三六	一 牛牧氏	三三
二 檀那美濃守康清	三七	二 田中氏	三三
三 大工藤原朝次	三七	三 吉村氏	三三
第一節 南北両朝の時代	三九	四 吉田氏	三三
第二節 信濃宮宗良親王	三九	五 龍口氏	三三
一 信濃宮に対する小笠原氏	三〇	六 座光寺氏	三三
二 信濃宮に対する松岡氏	三〇	七 宮崎氏	三三
第三節 最盛期の松岡氏	三三	八 今牧氏	三三
第一節 大塔合戦の出陣	三三	第六節 諏訪上社の頭役勤仕	三三
第二節 結城合戦の出陣	三三	一 諏訪上社の御頭	三三
第四節 松岡八十騎	三五	二 松岡氏の頭役	三三
第一節 最盛期の松岡氏	三四	第一節 松源寺開創の背景	三三
一 応永以後の主要事蹟	三四	第二節 創立の年代	三三
第三節 開基明甫正哲	三四	一 文明・明応両説の否定	三三
二 永正十年頃の創立	三四	二 永正十年頃の創立	三三

第一節 賴貞説の否定	一 二 三	三 三 三
二 松岡右衛門大夫伊予守貞正	一 一 一	一 一 一
三 開基の内室	一 一 一	一 一 一
第四節 拝請開山玉浦宗珉	一 一 一	一 一 一
第五節 開山文叔瑞郁	一 一 一	一 一 一
一 文叔大和尚略伝	一 一 一	一 一 一
二 玉浦宗珉の印可	一 一 一	一 一 一
三 妙心寺廿四世の住持	一 一 一	一 一 一
(一) 山門疏	一 一 一	一 一 一
(二) 同門疏	一 一 一	一 一 一
四 正英の為に逆修秉炬	一 一 一	一 一 一
五 勅諭円照真覺禪師	一 一 一	一 一 一
第十六章 光専寺の開創	一 一 一	一 一 一
第一節 創立の年代	一 一 一	一 一 一
第二節 開山芳蓮社西晉	一 一 一	一 一 一
第三節 開基吉村氏	一 一 一	一 一 一
一 中興開基吉村本亭	一 一 一	一 一 一
二 創建者吉村元貞	一 一 一	一 一 一
第四節 中興保謹淳哲	一 一 一	一 一 一
第十七章 戰国時代の松岡氏	一 一 一	一 一 一
第一節 武田氏の伊那経略	一 一 一	一 一 一
一 松岡氏の降服	一 一 一	一 一 一
第二節 信玄の治水—牛牧の水損	一 一 一	一 一 一
第三節 大島城の修築	一 一 一	一 一 一
一 松岡城の大修築は不可能	一 一 一	一 一 一
第四節 信玄朱印状—諏訪社頭役	一 一 一	一 一 一
第五節 武田氏の滅亡	一 一 一	一 一 一
一 武田信玄の死	一 一 一	一 一 一
二 織田軍の伊那攻略	一 一 一	一 一 一
第六節 飯田城毛利秀頼に従属	一 一 一	一 一 一
一 松岡兵部大輔頼貞の帰順	一 一 一	一 一 一
第七節 信長死後の伊那郡	一 一 一	一 一 一
一 伊那の郡司菅沼定利	一 一 一	一 一 一
二 知久平に築城	一 一 一	一 一 一
第八節 松岡氏の宛行状	一 一 一	一 一 一

第十八章 松岡氏の没落	三三
第一節 上田陣出兵	三三
第二節 高遠城攻撃に出兵	三三
第三節 座光寺氏の密告	三三
一 右衛門佐貞利召捕らるる	三三
二 松岡・座光寺の対決	三三
第四節 松岡氏の改易	三四
一 松岡・座光寺の書状	三四
二 座光寺氏の書状	三四
三 改易の年月	三四
四 貞利井伊直政に引取らるる	三四
(+) 井伊・松岡両氏の縁故	三四
五 松岡貞利の晩年	三四
第五節 松岡氏の後裔	三四
第六節 松岡大明神の建立	三四
第五編 近世	三四
第二十章 領主	五六
第一節 小笠原秀政	五六
第十九章 松岡氏滅後の形勢	五〇
第一節 毛利秀頼の飯田就封	五〇
一 城代篠治勝次郎	五〇
(+) 市田問屋に対する条目	五〇
(+) 太閤検地	五〇
(+) 石高制の実施	五〇
第二節 飯田城主京極高知	五〇
一 飯田城の拡張	五〇
二 街道改修と宿駅整備	五〇
第三節 山吹氏の山吹領有	五〇

一 飯田城の修築	元
二 春日街道の開通	元
三 朝日受永と朱印地	元
四 瑞穂寺復興の外護	元
(+) 移転再建	元
(+) 大嶋山大坊への徙書	元
第二節 飯田領御預け（天領時代）	元
一 預り主の諸説	元
二 大坂の陣	元
(+) 座光寺為眞の出陣	元
第三節 脇坂氏	元
一 脇坂氏の知行所	元
二 初代淡路守安元	元
(+) 文武両道に練達	元
(+) 飯田に文化の曙光	元
三 二代中務少輔安政	元
(+) 堀田正信の配流	元
四 脇坂氏の治績	元
(+) 堀田正信の配流	元
(+) 仕置条目	元
(+) 宿駅の整備	元
(+) 中馬争議の解決	元
(+) 新田の開発	元

第四節 堀 氏

一 堀氏の知行所	元
二 初代美作守親昌	元
三 二代周防守親貞	元
四 三代美作守親常	元
五 四代石見守親賢	元
六 五代若狭守親庸	元
七 六代大和守親蔵	元
(+) 三男龜弥（座光寺為明）	元
八 七代大和守親長	元
(+) 飯田藩学	元
(+) 下市田村大川除	元
(+) 千人講験動	元
九 八代河内守親忠	元
一〇 九代大和守親民	元
一一 十代大和守親審	元
(+) 寺社奉行	元
(+) 若年寄	元
一七千石加増	元
老中格	元
天保の改革に参画	元
一万石減封	元

(+) 親窯の詩歌	五六
一二 桂珠院成子	五九
一三 十一代若狭守親義	五八
一四 堀氏の家格その他	五〇
第五節 阿 部 氏	五〇
一 能登守正備	二〇
二 播磨守正定	二〇
三 播磨守正耆	二〇
四 豊後守正外	二〇
五 美作守正静	二〇
第六節 座光寺氏	二〇
一 座光寺氏の出自	二〇
二 初代丹後守為真	二〇
(+) 上州大竹の知行	二〇
(+) 山吹へ転封	二〇
(+) 四百石加増	二〇
(+) 二代勘左衛門為重	二〇
(+) 将軍家光より朱印状下賜	二〇
四 座光寺氏の知行所	二〇
五 山吹陣屋	二〇
六 座光寺氏の家格	二〇
(+) 交代寄合	二〇
(+) 座光寺氏の参府	二〇
七 三代喜兵衛為実	二〇
八 四代喜兵衛為治	二〇
(+) 刀工長治	二〇
九 分知座光寺氏	二〇
(+) 初代作左衛門為泰	二〇
(+) 二代清右衛門為長	二〇
(+) 三代新助為峯	二〇
(+) 四代孫次郎為雪	二〇
(+) 五代主税為勝	二〇
(+) 六代頼母為穂	二〇
(+) 七代喜兵衛為忠	二〇
(+) 三度養子を迎う	二〇
(+) 中興の英主	二〇
(+) 学芸の振興(後出)	二〇
(+) 武芸の練磨	二〇
(+) 刀剣の鍛造	二〇
(+) 自筆の歌碑	二〇
(+) 仏道の篤信	二〇
(+) 西の方の和歌一首	二〇
(+) 作善院為明	二〇
(+) 蓮仏の奇瑞	二〇
一四 八代采女為賛	二〇
一五 九代伊奈之助為寿	二〇

第一六	十代忠之助為將	三九
一七	十一代伊奈之助為巳	三〇
一八	十二代右京為舊	三〇
一九	十三代盈太郎為永	三一
第二十一章 民 政		三二
第一節 幕藩体制		三三
第二節 触書・高札		三四
一	慶安の御触書	三四
二	切支丹宗門禁制の触書	三四
三	徒党強訴逃散禁制の触書	三四
四	博笑禁制の触書	三四
五	高札・高札場	三四
第三節 藩主の巡見		三四
一	飯田藩主の巡見	三五
二	市田陣屋役人の巡見	三五
三	山吹領主の巡見	三五
(一)	九代為寿の時	三五
(二)	十代為将の時	三五
(三)	十一代為巳の時	三五
第四節 藩の役人		三五
第五節 村の成立		三六
一	郷村の成立	三六
二	市田郷八ヶ村	三六
(一)	長百姓(肝煎)	三六
(二)	清東のこと	三六
三	大島山村	三六
四	原町の成立と上市田村	三六
(一)	正徳元年分村	三六
(二)	新田町(附増野)の成立	三六
第六節 村の構成		三六
一	五人組	三六
(一)	五人組手形	三六
(二)	五人組手形の趣旨要約	三六
二 村 役 人		三六

(一) 庄 屋	三三	(二) 組頭(釣頭)の寄合	三四
肝煎の称	三三	村の惣寄合	三四
大庄屋・庄屋上席	三三	村の定寄合	三四
代々庄屋・年番庄屋	三三	二 村定め(規約)	三四
4 庄屋の事務	三三	村入用(村費)	三四
(附) 小 使	三三	村入用帳	三四
(附) 組 頭	三三	村の臨時入用	三四
(三) 百姓代(長百姓)	三三	盆前本貰割合帳の一例	三四
(四) 盆前人足賃割合帳の一例	三三	四 御用留(日記)	三四
三 村役人一覽	三三	五 村の施設	三四
(一) 出原村三役	三三	(二) 消極的施策	三四
(二) 大島山村三役	三三	(三) 鄉 藏	三四
(三) 牛牧村三役	三三	(四) 制札場	三四
(四) 吉田村三役	三三	(五) 蔓 藏	三四
(五) 上市田村三役	三三	(六) 番	三四
(六) 下市田村三役	三三	(七) 阿部領牛牧村の郷藏	三四
(七) 山吹村三役	三三		
(八) 駒場村三役	三三		
(九) 上平村三役	三三		
(十) 竜口村三役	三三		
(十一) 新田町三役	三三		
第七節 村政の運営	三三		
一 村の寄合	三三		
(一) 御触書伝達の寄合	三三		
第一二二章 住 民	三三		
第二節 百 姓	三三		
一本百姓	三三		
二長百姓	三三		
三水呑百姓	三三		

第三節 其他の住民

一 郷 士	三〇〇	五 戸 口 表
二 百姓以外の雜業者	三〇〇	(イ) 家 数 各村家数一覽表
三 武 士 (御家中)	三〇〇	(ア) 人 数 各村人数一覽表
(イ) 山吹陣屋の武士	三〇〇	
(イ) 市田陣屋の武士	三〇〇	
第四節 人別(戸籍)	三〇〇	
一 人 別 改	三〇〇	
二 宗門改帳	三〇〇	
(イ) 禁教政策	三〇〇	
(イ) 宗門改帳の実例	三〇〇	
1 宗門帳記載事項	三〇〇	
2 宗門帳の附紙	三〇〇	
3 同居人の記載	三〇〇	
(イ) 特殊な宗門帳	三〇〇	
1 寺内宗門改帳	三〇〇	
2 穢多宗門改帳	三〇〇	
3 借屋人別改帳	三〇〇	
三 寺 請 証 文	三〇〇	
(イ) 寺 送 り	三〇〇	
四 村 送 り	三〇〇	
(イ) 村送り一札	三〇〇	

第二十三章 土 地

第一節 百姓に対する土地の真価

一 耕地の尊重	四三	
二 上地・惣作	四三	

第三節 山林・原野

一 飼料・刈敷の供給地	四六	
二 地付山	四六	
三 新開発と採草地	四七	

第四節 土地の計量

一 高森・大鹿の土地比較	四八	
二 土地計量の沿革	四八	
(イ) 町段歩制の起原	四九	
1 尺の長さの変遷	四九	

3 豊臣秀吉の改定	一 全国的検地
4 徳川家康の改定	(一) 太閤検地
(二) 貫文制	(二) 江戸幕府の検地
1 貫文表示の実例	二 検地の実施
2 貫文高のきめ方	(一) 地引帳
(三) 石高制	(二) 野帳
1 天正の石直し	(三) 検地帳
2 貫文制と石高制の違い	(四) 名寄帳
(一) 位附	三 主要な検地
(二) 石盛	(一) 寛永の検地
1 市田の石盛	(二) 正保の検地
2 山吹の石盛	(三) 慶安の検地
第五節 村 高	(四) 寛文の検地
一 村高算出の実例	(五) 宝永の検地
(一) 田畠の地積と斗代	第七節 新田開発
(二) 石高の算出	一 新田開発の全国概況
(三) 高内引	二 開田の奨励と制限
二 表高と内高	三 江戸初期の開田—大島山村
三 下市田村の村高	四 江戸中期以後の年貢高
(一) 宝曆九年に両高統一	
第六節 檢 地	
二 十大名と土地	
二 百姓と土地	

三 田畠永代売買禁止令
四 分地制限令

第八節 土地の売買

- 一 年季 売
- 二 土地の質入
- 三 土地永代売渡証
- (+) 永代売渡添手形
- (+) 末々迄相渡手形—藩老裏書
- (+) 替地手形
- (+) 永代売券状—庄屋裏書
- (+) 田畠売手形—古証文相添
- (+) 田畠山林竹木家屋敷壳渡手形
- (+) 煙讓証文—御未進上納の為
- (+) 田畠壳券状—代金と藏米
- (+) 御裏判之譲証文—四至明記
- (+) 林相渡手形—質入
- (+) 林末々迄相渡手形
- (+) 地主層の形成

第九節 裏 判

- 一 市田と山吹の違
- 二 裏判留書帳

第二十四章 貢 租

第一節 貢租の種類

- 一 正租—本途物成
- 二 雜税—小物成
- 三 夫役

第二節 貢租の賦課

- 一 村高
- 二 毛付高
- 三 引

(+) 当引(一作引)

- (+) 高内引

- 1 連々引

- 2 年々引

- (+) 無年貢地

四 免

- (+) 免定の実例

- 1 下市田村の免定
- 2 出原村の免定

五 免附(屢附)

- (+) 四公六民か五公五民か
- 山吹村取箇

六 免 割	(-) 個人分免割の実例	癸
1 永流引		癸
2 番田相米		癸
3 柿相米		癸
4 御見取		癸
5 御用米増		癸
第三節 貢租の上納		癸
一 納 所		癸
(-) 初納所・中納所・詰納所		癸
(-) 納 所 場		癸
(-) 米 掛		癸
二 年貢割判帳		癸
(-) 個人分記載例		癸
三 年貢米納通		癸
(-) 二百余年間の綴り		癸
(-) 個人分の実例		癸
四 年貢皆済目録		癸
(-) 皆済目録の実例		癸
第四節 御年貢米御藏入分		癸
一 御藏入分入札		癸
二 米切手下渡		癸

第五節 貢租の未進

一 未進高勘定の実例

第一節 農業		癸
一 農事暦		癸
二 天候と農事		癸
三 稲作		癸
(-) 年々の田植仕舞		癸
(-) 田方植付届書		癸
(-) 稲の品種		癸
1 寛政以後七十年間の品種		癸
(-) 収量		癸
1 種類の量		癸
2 嘉永以後玄米収穫高表		癸
四 畜		癸
(-) 麦類		癸
1 豆類		癸
2 薏稗類		癸
3 薏麦		癸
4 粟黍		癸

(四) 蔬菜類 1 煙草作付半減令 2 煙草烟檢地帳 五 特用作物 (一) 竹 1 竹輪 2 御蔽 3 水害復旧用竹 (二) 茶 1 楠 (三) 桃 1 桃の収穫作業 2 漆 3 胡桃 (四) 胡桃代 1 小物成胡桃代 2 綿 3 山葵 六 柿(市田柿) (一) 伊勢屋敷の焼柿(伝承) (二) 脇坂氏の柿改 1 大島山村柿改野帳 2 吉田村柿改帳 (三) 明暦年間柿の概況 1 串柿の作方	2 柿木所有戸数 3 生年と休年 4 串柿の生産量 5 品種・立石柿・渋柿・一両柿・外山柿・みようたん・こねり (四) 柿相米 (五) 寛政以後柿の生産 (六) 串柿の値段 2 柿 3 安永以後の収穫統計 3 安永以後の養蚕記録 四 養蚕の三期 (一) 春蚕 1 掃立上簇繭搔日附表 2 掃立の早い年遅い年 (二) 夏蚕 1 夏蚕の始期 2 夏蚕飼育記録 3 春夏蚕 (三) 秋蚕 五 蚕種 (一) 片桐八郎太夫の書翰
---	---

(文) 文化の頃の蚕種	吾四
(奥) 奥州種	吾五
(上) 上田産その他	吾五
(黄) 黄繭種	吾六
(蚕) 蚕種の値段	吾六
(種) 蚕種の値段	吾六
(屋) 収繭量	吾六
(枚) 収繭量	吾七
(玉) 玉繭の収量	吾七
(価) 蔗の値段	吾八
(人) 蔗買人	吾九
(育) 銅育法	吾十
(立) 掃立依頼	吾十一
(族) 一起より上族まで	吾十二
(繭) 蔗搾き	吾十三
(桑) 桑	吾十四
(付) 桑の植付制限	吾十五
(高) 桑高値の年	吾十六
(代) 桑の代用植物	吾十七
(品) 桑の品種	吾十八
(蚕) 蚕	吾十九
(具) 具	吾二十
(あ) あめ	吾二十一
(か) かごろじ	吾二十二

第三節 肥 料

一 肥料を重んずること

二 主な肥料

(下) 下肥

(厩) 厩肥

1 馬屋肥出し

(刈) 刈敷

1 刈敷の必要量

2 中村氏の実例

3 刈敷山

(石) 石灰

(草) 草木灰

(灰) 灰

1 天保の頃使用

2 石灰使用の差止

3 石灰使用の歎願書

(金) 金肥

第四節 家畜・鳥獸虫害

一 牛

二 馬

(+) 馬の数 五三
 (+) 馬無尽・馬をくむ 五三
 (+) 馬の血取り 五三
 (+) 馬の病氣・死亡 五三

三 鳥獸虫害

(+) 雲蚊・稻虫 五三
 (+) 猪狩・威鉄砲 五三

第五節 林業

一 御林 五三
 (+) 御林境改 五三
 (+) 用木下賜 五三
 二 百姓山 五三
 (+) 百姓林の譲渡 五三
 (+) 小物成の賦課 五三
 (+) 分一連上の上納 五三

三 入会山

(+) 市田六カ村の入会山 五三
 1 入会山樹木の売却 五三
 2 入会山の保護 五三
 (+) 市田山吹の入会山 五三
 1 地元村と入会村 五三
 2 地元村の山林支配 五三

一所一分之郷

(+) 山吹大島の入会山 五三
 (+) 草野入会と奥山入会 五三

(+) 三ツ沢山の立木売却 五三
 1 享保八年の売却 五三

(+) 元文三年の売却 五三
 1 立木売却後の入会権 五三

四 樽木

1 牛牧対座光寺の山公事 五三
 2 脇坂公の仰にて貸山 五三
 3 貸山返却の手形 五三
 4 堀公の代に再貸山 五三
 5 市田陣屋以後の貸山問題 五三
 6 市田陣屋よりの貸山一札 五三

四 樽木

(+) 樽木成村 五三
 (+) 御役樽の代米 五三
 (+) 借用御蔵米樽木にて返納 五三

五 山師

(+) 樽木米 五三
 (+) 他国より入った山師 五三
 当地の山師 五三

第六節 手工業・職人

2 洋銀の両替

(内) 貿易仕切書

一 百姓の生活の味と豊かさ

堺

二 家内加工

堺

(1) 糸引業

堺

(2) 竹細工

堺

(3) 新田籠

堺

1 新田籠

堺

2 花びく

堺

(1) 糸取工

堺

(2) 手織工

堺

(3) 味噌工

堺

(4) 溜酢工

堺

(5) 焼酎味醤工

堺

(6) 串柿工

堺

(7) 饅頭工

堺

1 出原饅頭

堺

2 饅頭切手

堺

三 糸引業

堺

(1) 糸引業の創始

堺

(2) 糸引業の人数

堺

(3) 糸札(鑑札)

堺

運上銀

堺

1 横浜行日記

堺

第六節 手工業・職人

2 洋銀の両替

(内) 貿易仕切書

一 飯田糸

堺

2 進取の気性

堺

(1) 生糸売買局

堺

(2) 生糸商出原村伝左エ門

堺

3 生糸商出原村弥右エ門

堺

(1) 大工

堺

(2) 山吹の大工

堺

(1) 宮大工

堺

(2) 市田の大工

堺

(1) 市田の工

堺

(2) 市田村上沼長四郎

堺

(1) 新田町熊谷庄五郎

堺

(2) 伊那清(古林清松)

堺

(1) 伊那清の贈号

堺

(2) 師匠山口権頭

堺

(3) 伊那清作の神社・仏閣

堺

(1) 左官

堺

(2) 石挽

堺

石工名のある石造物

堺

1 瑞璃寺の仁王尊	2 牛牧の秋葉塔	3 出砂原の六地蔵	4 松木土場の九頭竜權現碑	5 元善光寺道標石	6 泰山神社の石燈籠	7 瑞璃寺の六地蔵
堺一	堺一	堺一	堺一	堺一	堺一	堺一
堺二	堺二	堺二	堺二	堺二	堺二	堺二
堺三	堺三	堺三	堺三	堺三	堺三	堺三
堺四	堺四	堺四	堺四	堺四	堺四	堺四
堺五	堺五	堺五	堺五	堺五	堺五	堺五
堺六	堺六	堺六	堺六	堺六	堺六	堺六
堺七	堺七	堺七	堺七	堺七	堺七	堺七
堺八	堺八	堺八	堺八	堺八	堺八	堺八

第七節 雜業					
一 神職					
(1) 吉田家の免許	(2) 神主号	(3) 市田の神職			
1 下市田村上沼氏	2 吉田村吉村氏	3 牛牧村田畠氏	4 下市田村林氏	5 山吹の神職	1 爪口村宮島氏
堺一	堺一	堺一	堺一	堺一	堺一
堺二	堺二	堺二	堺二	堺二	堺二
堺三	堺三	堺三	堺三	堺三	堺三
堺四	堺四	堺四	堺四	堺四	堺四
堺五	堺五	堺五	堺五	堺五	堺五
堺六	堺六	堺六	堺六	堺六	堺六
堺七	堺七	堺七	堺七	堺七	堺七
堺八	堺八	堺八	堺八	堺八	堺八
二 神子	三 僧侶	四 庵主	五 尼僧	六 行者・修驗者	
1 市田の神子	2 山吹の神子	1 寺請	2 罪科輕減の斡旋	3 論争の仲裁	
堺一	堺一	堺一	堺一	堺一	
堺二	堺二	堺二	堺二	堺二	
堺三	堺三	堺三	堺三	堺三	
堺四	堺四	堺四	堺四	堺四	
堺五	堺五	堺五	堺五	堺五	
堺六	堺六	堺六	堺六	堺六	
堺七	堺七	堺七	堺七	堺七	
堺八	堺八	堺八	堺八	堺八	

七 医 師	(+) 梁
(+) 医療の困難:	1 文化十四年の梁
1 売薬・炙点	2 文政三年の梁
(+) 祈禱・禁厭	3 落鮎の配分
2 遠地の医者	4 明治七年落魚壳上明細
(+) 市田の医者	(+) 川干し
3 遠地の医者	(+) 網打
(+) 加藤氏	(+) 毒もみ
1 大沢氏	(+) 猿屋・簾
2 上沼氏	(+) 猿牽簾宗門帳
3 三沢氏	(+) 猿屋
4 山路氏	(+) 猿簾
(+) 山吹の医師	(+) 番太・穂多
1 河野氏	(+) 番太
2 佐伯氏	(+) 穂多
3 常盤氏	
4 豊浦氏	
5 山路氏	
八 座頭・瞽女	
(+) 座 瞽女	
九 髮 結	
一〇 博 労	
一一 猿 師	
一二 漁 勢	
二一 師 勢	
二二 猿 勢	
二三 捩 勢	
第八節 商 業	(+) 梁
一 飯田商人との取引	
二 振 商 人	
(+) 鑑札(糸札・腰札)	
1 腰札取集め	
2 腰札相渡し	
(+) 振商の運上	

三 村内諸商	(+) 懒頭屋	奇	五 米相場	(+) 無尽の質物
(+) 茶店	(+) 天保五・六年の米相場	奇	(+) 文久四年の米相場	(+) 天保五・六年の米相場
(+) 揚酒屋	(+) 慶応二・四年の米相場	奇	(+) 酒一升の値	(+) 豆腐一丁の値
四 他國の商人	(+) 競り物	奇	(+) 豆腐切手・饅頭切手	(+) 柿一重の値
(+) 競り物	五 商品切手	奇	(+) 酒切手	(+) 大工の質銀
六 秤柄改	(+) 酒切手	奇	(+) 柿一重の値	(+) 石工・左官の質銀
(+) 秤柄改	(+) 豆腐切手・饅頭切手	奇	(+) 百姓の人足貸	(+) 飯田町の職人質銀
七 物価	(+) 豆腐切手・饅頭切手	奇	(+) 天明の木挽・石工	(+) 天明の木挽・石工
八 貨幣	六 秤柄改	奇		
九 貸借	(+) 秤柄改	奇		
十 書入質地	(+) 贷融	奇		
十一 質入地	十一 貸融	奇		
十二 金貸し	十二 金貸し	奇		
十三 番匠町野原より	十三 番匠町野原より	奇		
十四 林村大原より	十四 林村大原より	奇		
十五 賃屋	十五 賃屋	奇		
十六 無尽	十六 無尽	奇		
十七 借用金	十七 借用金	奇		
十八 抵当—御蔵米押借	十八 抵当—御蔵米押借	奇		
十九 金	十九 金	奇		
二十 銀貨	二十 銀貨	奇		
二十一 金・銀・銭の勘定	二十一 金・銀・銭の勘定	奇		
二十二 三種の貨幣	二十二 三種の貨幣	奇		

第二十六章 交 通	第一節 道 路	第二節 伝馬宿の開発
一 江戸以前の街道	一 東山道	(1) 松岡時代から開発
(1) 鎌倉街道	(1) 原町伝馬宿の創設	
二 主要な道路	(2) 伝馬の衆の置かれた時期	
(1) 伊那街道	(3) 菅沼小大膳と市田新町	
3 2 1 文禄二年引上説	(4) 篠治勝次郎の伝馬宿経営	
市田原町の開発	(5) 京極高知の伝馬条目	
		(1) 春日街道
		(2) 伊那街道改修説
		(3) 飯島以北の春日街道
		(4) 道路施策の根本差
		(5) 大久保長安の開発策
		(6) 小野街道の開発
		(7) 春日街道の開発
	三 社寺名勝道	
	(1) 秋葉街道	
	(2) 善光寺道	
	(3) 座光寺道	
	(4) 不動滝道	
	(5) 隣政寺道	
五 四 一 道しるべ		
一 里 塚		

第二節 船 渡

一 竜口船渡	充	(+) 新助郷赦免の歎願
二 田村前船渡	充	(+) 巡見使の見分
三 供野前船渡	充	(+) 上郷惣代の出府歎願
第四節 助 橋 梁	充	(+) 道中奉行所へ召出
一 大島川橋	充	(+) 文政二年助郷勤役の実例
二 境沢橋・田沢川橋	充	(+) 代助郷免除の歎願
三 天竜川土橋	充	(+) 代助郷勤方
(+) 竜口の橋	充	(+) 代助郷の免除
(+) 河野の橋	充	(+) 巡見使の見分
(+) 田村の橋	充	(+) 免除仰付
四 天竜川土橋の紛争	充	(+) 免除仰付
(+) 土橋掛渡規定書	充	(+) 中馬争議の発生
(+) 紛争の再発	充	(+) 七色の荷物宿継
(+) 各陣屋役人の交渉	充	(+) 寛文の裁許書
第五節 中 馬	充	(+) 元禄の争議
一 定助郷・加助郷	充	(+) 宝永以後の紛議
二 手 明 村	充	(+) 御裁許書の概要
(+) 市田からの歎願事情	充	(+) 系外八品の訴訟
(+) 山吹からの歎願事情	充	(+) 四カ宿問屋の勝訴
三 文化的助郷差村の訴訟	充	(+) 中馬村方の抗議と勝訴

一 定助郷・加助郷	充	(+) 中馬争議の発生
二 手 明 村	充	(+) 七色の荷物宿継
(+) 市田からの歎願事情	充	(+) 寛文の裁許書
(+) 山吹からの歎願事情	充	(+) 元禄の争議
第三節 橋 梁	充	(+) 宝永以後の紛議
一 大島川橋	充	(+) 御裁許書の概要
二 境沢橋・田沢川橋	充	(+) 系外八品の訴訟
三 天竜川土橋	充	(+) 四カ宿問屋の勝訴
第四節 助 橋 梁	充	(+) 中馬村方の抗議と勝訴

四 中馬無き村	(+) 深刻な関係	一 安政五年参府の実例
1 生産物値段の下落	(+) 肥料等の値上り	2 村役人の江戸出府
2 新規中馬願	(+) 結束して訴訟の場合	3 甲州街道の道中
五 貸中馬	(+) 中馬株の空いている場合	4 中仙道の道中
六 奥筋・下筋の紛争	(+) 紛争の発端	五 道中日記
七 天竜川通船との抗争	(+) 奥筋下筋両者の言分	6 善光寺一道乃記
八 通船百艘の願出	(+) 江戸にての吟味	7 西遊記行
九 反対運動の解消	(+) 議定連印書	8 金毘羅道中日記
十 大豆の船荷問題	七 往来手形	9 越後国道中記
十一 石灰の通船川下げる	(+) 関所	10 甲州街道の道中
十二 鵜飼舟の通船	八 行倒れ	11 中仙道の道中
第六節 旅行	(+) 間屋の出した手形	12 道中日記
一 旅の難儀	(+) 庄屋の出した手形	13 善光寺一道乃記
二 巡見使の通行	(+) 檀那寺の出した手形	14 西遊記行
三 参勤交代の参府	(+) 国元へ飛脚差立	15 金毘羅道中日記
	(+) 巡礼の行倒れ	16 越後国道中記
	(+) 駆落者の行倒れ	17 甲州街道の道中
	九 無縁堂	18 中仙道の道中

一〇 村送り

三

拾九屋敷

(二) 壱役・半役

(三) 半役発生の由来

(四) 潰れ屋敷

(五) 伝馬役の耕作地

第二十七章 市田宿

三

壹役・半役

(二) 壱役・半役

(三) 半役発生の由来

(四) 潰れ屋敷

(五) 伝馬役の耕作地

第一節 市田宿の創始

三

一 問屋・伝馬屋敷

三

四 水役

(二) 水役の伝馬役勤務

(三) 伝馬役馬

(二) 伝馬の衆

三

五 伝馬役馬

(二) 伝馬の衆の離散

(三) 伝馬役馬

(二) 市田新町に対する朝日文書

三

五 伝馬役馬

二 篠治の伝馬宿政策

三

五 伝馬役馬

(二) 伝馬宿条目

三

五 伝馬役馬

(二) 伝馬衆本郷の人夫役免除

三

五 伝馬役馬

(二) 伝馬衆常住の嚴命

三

五 伝馬役馬

(二) 京極の伝馬宿政策

三

五 伝馬役馬

第二節 伝馬宿の機構

三

五 伝馬役馬

一 問屋

三

五 伝馬役馬

(二) 問屋の歴代当主名

三

五 伝馬役馬

(二) 年寄

三

五 伝馬役馬

三 伝馬役

三

五 伝馬役馬

第四節 伝馬

三

五 伝馬役馬

一 無賃伝馬

三

五 伝馬役馬

(二) 朱印伝馬

三

五 伝馬役馬

(二) 証文による伝馬

三

五 伝馬役馬

二 貸伝馬

三

五 伝馬役馬

(二) 御定賃錢

三

五 伝馬役馬

(一) 相対賃錢	御一行の様子聞合せ
1 相対賃錢の插話	御通行取止の廻文
三 伝馬の荷物	
(一) 馬の荷物	実例—將軍家へ献上の氷餅
1 本馬	同—朝鮮使節饗應の塩漬猪
2 軽尻	
3 乗掛	
4 人足の荷物	
5 乗物	
6 駕籠	
7 山駕籠・四手駕籠	
8 長持・具足櫃	
9 両掛け箱	
10 茶弁当・合羽籠	
11 竹馬・分持	
第五節 人馬の継立	
1 先触	
2 再先触	
3 繰立業務	
(一) 先触の受け送り	
(一) 助人馬の御願	
(一) 再先触の受け送り	
第六節 宿泊	
1 一本陣	
2 旅泊	
(一) 旅人宿	
1 伝馬条目の宿貸	
2 延享の頃の旅人宿	
3 他地旅宿との出入	
4 天保の宿泊人数	
第七節 郷宿	
1 郷宿	
2 貨	
四 御品物継送り	
(一) 割増賃錢	
1 弘化の割増賃錢	
2 慶応の割増賃錢	
五 人馬の賃錢	
(一) 元賃錢	
四 御品物継送り	
(一) 実例—將軍家へ献上の氷餅	
(一) 同—朝鮮使節饗應の塩漬猪	
三 伝馬の荷物	
(一) 馬の荷物	
1 本馬	
2 軽尻	
3 乗掛	
4 人足の荷物	
5 乗物	
6 駕籠	
7 山駕籠・四手駕籠	
8 長持・具足櫃	
9 両掛け箱	
10 茶弁当・合羽籠	
11 竹馬・分持	
第五節 人馬の継立	
1 先触	
2 再先触	
3 繰立業務	
(一) 先触の受け送り	
(一) 助人馬の御願	
(一) 再先触の受け送り	
第六節 宿泊	
1 一本陣	
2 旅泊	
(一) 旅人宿	
1 伝馬条目の宿貸	
2 延享の頃の旅人宿	
3 他地旅宿との出入	
4 天保の宿泊人数	
第七節 郷宿	
1 郷宿	
2 貨	

第七節 伝馬宿の保護	一 初期の保護	1 木賃	(1) 延宝七年の御裁許
	2 食事付宿賃	2 絵図の作製	
	3 御裁許状	2 御裁許状	
	四 貞享の山論	3 御裁許の結果	
	一 地付刈敷山への入会差止	1 絵図の作製	
	2 市田側より江戸出訴	2 御裁許状	
	3 元禄元年の御裁許	3 御裁許の結果	
	五 一里塚の境論	4 延宝七年の御裁許	
	一 発端	1 木賃	
	2 常盤の馬道取潰し	2 絵図の作製	
	3 出原村小前の乱暴	2 御裁許状	
	4 内済の成立	3 御裁許の結果	
	五 事件の再燃	4 延宝七年の御裁許	
	1 杖の打直し・馬道閉塞	1 木賃	
	2 双方村役人の折衝	2 絵図の作製	
	六 1 入会の草刈場	2 御裁許状	
	2 山吹方の反論	3 御裁許の結果	
	七 1 寺院の取扱	4 延宝七年の御裁許	
	2 境界の掘切り	1 木賃	
	3 両寺取扱一札	2 絵図の作製	
第一節 市田村山吹の争論	一 二所一分之郷	2 御裁許状	
	二 延宝の山論	3 御裁許の結果	
	三 発端	4 延宝七年の御裁許	
	1 大島山入山へ杣入	1 木賃	
	2 山吹方の反対と狼藉	2 絵図の作製	
	4 事件の紛糾と江戸出訴	2 御裁許状	
第二節 山吹対大島の争論	1 市田・山吹双方の主張	3 御裁許の結果	

一 寛文の境論………	(+) 増野原切起し問題………	丸六	
	(+) 宮崎氏の暖起………	丸七	
二 延宝の野山境論………	(+) 野山境論御批判状………	丸八	
1 大島三カ村の江戸出訴………	1 御批判状に対する不満………	丸九	
	(+) 訴訟状及返答書………	丸十	
2 山吹四カ村の返答書………	1 大島三カ村の訴訟状………	丸十一	
	2 山吹四カ村の返答書………	丸十二	
3 山吹返答書の要点………	3 山境の御裁許………	丸十三	
	(+) 御絵図並御裁許状………	丸十四	
1 山境の御裁許………	2 野境の御裁許………	丸十五	
	(+) 貞享の入会論………	丸十六	
2 野境の御裁許………	2 大島より入会防止………	丸十七	
	(+) 山吹より江戸出訴………	丸十八	
3 貞享の入会論………	3 貞享の入会論………	丸十九	
	(+) 大島より入会防止………	丸二十	
4 元禄の入会論………	4 元禄の入会論………	丸二十一	
	(+) 御裁許状………	丸二十二	
5 宝曆の入会論………	5 宝曆の入会論………	丸二十三	
	(+) 御裁許状………	丸二十四	
6 大島奥山の柴刈防止………	6 大島奥山の柴刈防止………	丸二十五	
	(+) 訴訟状及返答書………	丸二十六	
7 山吹四カ村の訴訟状………	7 山吹四カ村の訴訟状………	丸二十七	
	(+) 訴訟状及返答書………	丸二十八	
第三節 市田対座光寺の境論………	2 大島三カ村の返答書………	2 大島三カ村の返答書………	八三
一 寛永の村境相定一札………	(+) 村民の団結………	八四	
二 寛永の境界出入………	1 起請文………	八五	
	(+) 御裁許・御請証文………	八六	
1 山原の境目手形………	2 総百姓連判………	八七	
	(+) 山吹陣屋の態度………	八八	
2 河原の境目手形………		八九	
		九〇	
三 座光寺村へ貸山………		九一	
		九二	
第四節 市田各村の諸争論………		九三	
一 吉田対市田の刈敷山論………	(+) 吉田対市田の刈敷山論………	九四	
	(+) 市田・吉田刈敷山の騒動………	九五	
二 仁王山の訴訟………	(+) 吉田外四カ村の口上書………	九六	
	(+) 結末………	九七	
三 慶安の訴訟………		九八	
	(+) 享保の訴訟………	九九	
4 瑞穂寺の訴訟状………		一〇〇	

二 水に対する百姓の執念	第一節 用水井並水論
(1) 主要な用水路の開通年代	一 大島山川
(2) 寺井・中井	二 天竜川原の草場論
(3) 下市田・吉田双方の主張	三 牛牧村入会草場論
(4) 飯田奉行の裁断	四 市田・牛牧双方の主張
(5) 下市田山手村の口上書	(1) 市田奉行の裁断
(6) 山吹四カ村の口上書	(2) 内済取暖人
(7) 争論の決着	(3) 入会山道の争論
(8) 享和の入会山道論	(4) 争論の決着
(9) 権現坂の争論	(10) 五本松通の争論
(10) 花立通の争論	(11) 1 暖人による解決
(11) 瑞穂寺境内通行一件	(12) 2 市田役所の御達にて解決
(12) 第二十九章 用水・水論	(13) 3 文政の水論
(13) 第一節 百姓と水	(14) 4 安政の水論
(14) 一 水論文書と用水に関する文書	(15) 5 二股分木
(15) 1 井口水割の累年概要	

天明五年の水論	2	元治の水論	3
寛政元年の水喧嘩	3	曇人による折衝	(1)
寛政四年の御裁許	4	庄屋役御取揚げ	(2)
文化の水論	5	熟済議定の成立	(3)
(1) 熟談困難の実情	6	井底平均見当石	(4)
文政の水論—井口の取暖	6	いんが沢ほか三沢	(5)
(2) 宿 井	1	未満水による荒廃	(6)
延享の水論	1	享保の水論	(7)
(3) 牛 牧 井	2	九頭川井	(8)
寛政四年の水論	2	深山田井	(9)
(4) 御裁許状	3	(同) 上 井	(10)
井口水割の累年概要	1	(同) 窪 田 井	(11)
(5) 分木御断り一件	4	三井の水論	(12)
嘉永六年の議定書	5	済口議定書	(13)
安政の水論	6	(同) 小胡桃沢の水論	(14)
(1) 上下市田村の言分	1	出原井	(15)
上下牛牧村の言分	2	1 慶長の公事	2
暖人による規定書	3	2 寛永の分水	2
下市田南北井	4	(1) 脇坂氏の命にて分水	(1)
	5	(2) 出原村百姓の抗議	(2)
(1) 文化の水論	1		
内済申定	2		
安政の水論	2		
胴木伏込の申出	1		
市田役所の御吟味	1		

(1) 埠外両所見解の相違

(2) 明暦二年の井水騒動

4 元禄六年の分水

5 宝永の水論

(1) 出原村の口上書

(2) 御裁許状

6 安永の用水和談

7 火繩水

8 分木の伏込

(1) 分木普請の貰割

9 天明の水論

10 正木井

11 追分井

12 伝田洞井

13 宝曆の水論

14 山吹・駒場の井水分規

15 田沢井

16 越田井

17 清水井

18 分木伏込

19 冬春の分木添木

20 新田井口切広め

六寺沢川

七 大沢川

(1) 上平井

1 芝宮井面

2 火繩水

3 火繩水

1 宝曆十二年の火繩水

(1) 累年火繩水の概要

2 駒場井

1 宝曆上平村と水論

(1) 山吹役所の御裁許

2 蔽原分木

(1) 郷頭井

1 宝永の分水

2 文化的水喧嘩

1 小沼井

1 寺前井

2 馬根垣外井

(1) 下竜口へ分水

(2) 南方の清水

八唐沢川

(1) 竜口井

1 文化的水論

2 文久の水論

(1) 長光・花巻両寺の扱い

九 天竜川	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 天竜井	九一	九二	九三	九四	九五
1 文政の開鑿	九一	九二	九三	九四	九五
2 文久の岩石掘抜	九一	九二	九三	九四	九五
四 松木土場大井	九一	九二	九三	九四	九五
三 1 大水門	九一	九二	九三	九四	九五
2 大石橋	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 総兵衛川除大井	九一	九二	九三	九四	九五
第三節 用水雜記	九一	九二	九三	九四	九五
一 開田と用水	九一	九二	九三	九四	九五
二 水利権と井普請	九一	九二	九三	九四	九五
三 冷拔の用水	九一	九二	九三	九四	九五
四 水車と用水	九一	九二	九三	九四	九五
第四節 溝 池	九一	九二	九三	九四	九五
一 間ヶ沢堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堤の築造	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 天保の掘足工事	九一	九二	九三	九四	九五
二 牧の内堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堤の築造	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堤土手置足・砂浚い	九一	九二	九三	九四	九五
三 豆田堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 追加修復御普請	九一	九二	九三	九四	九五
四 牛牧坂堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堤の築造	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 改築普請	九一	九二	九三	九四	九五
五 堤原堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 津々美原堤の築造記録	九一	九二	九三	九四	九五
五 1 天保四年の御普請	九一	九二	九三	九四	九五
三 2 天保六・七年の御普請	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 人足数・坪数	九一	九二	九三	九四	九五
六 大洞堤	九一	九二	九三	九四	九五
七 千早原堤	九一	九二	九三	九四	九五
八 浅間堤	九一	九二	九三	九四	九五
九 垣外の堤	九一	九二	九三	九四	九五
第三十章 川 除	九一	九二	九三	九四	九五
第一節 下市田村大川除	九一	九二	九三	九四	九五
一 企画及関係者	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堀親長と奉行黒須氏	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 御普請の役人名	九一	九二	九三	九四	九五
二 中村惣兵衛	九一	九二	九三	九四	九五
三 築 堤	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 亀甲石と天伯祠	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 堤防の構造	九一	九二	九三	九四	九五
(+) 工事の進行・竣工	九一	九二	九三	九四	九五

四 大川除絵図	九五
五 大井の開鑿	九七
六 工事費	九七
七 開田	九八
(+) 正保年間の水田	九八
(+) 寛文年間の水田	九八
(+) 大井開通後の開田	九八
八 下市田邑堤防之御銘	九九
(+) 御銘の訓読	九九
九 分杭建立	九九
一〇 献兵衛の供養	九九
(+) 供養碑	九九
(+) 献兵衛川除銘	九九
一一 大川除接続堤防	九九
第二節 竜口村川除	九三
一 寛政以前	九三
二 海侃上人と川除	九三
三 文政の川除普請	九三
四 天保の川除普請	九三
五 安政の川除普請	九三
(+) 川除入用の借用金	九三
六 九頭竜大権現碑	九三
七 慶応の川除普請	九三

第三節 上平・駒場村川除	九六
一 安政の川除普請	九六
二 慶応の川除普請	九七
第三節 山吹村川除	九八
一 下平石川除	九八
二 天保の川除普請	九九
三 九頭竜大権現碑	九九
(+) 石工和平	九九
四 松木渡場	九九
五 慶応の川除普請	九九
第五節 吉田村川除	一〇〇
一 吉田村の川原田	一〇〇
二 文化の川除普請	一〇〇
(+) 文化九年の普請	一〇〇
二 文化十二年の普請	一〇〇
三 天保の川除普請	一〇〇
四 弘化の川除普請	一〇〇
五 安政の川除普請	一〇〇
六 万延の川除普請	一〇〇
七 文久の川除普請	一〇〇
八 元治の相合普請	一〇〇
九 慶応の川除普請	一〇〇

第六節 下市田川除川

山吹藩史料の記録

一 文化の川除普請 壱
 (1) 文化二年の普請 壱
 (2) 文化四年の普請 壱
 (3) 文化十二年の普請 壱
 二 天保の川除普請 壱
 (1) 天保十三年の普請 壱
 (2) 天保十四年の普請 壱
 三 弘化の川除普請 壱
 (1) 川除御普請所の賄 壱
 四 嘉永の川除普請 壱
 (1) 御普請 壱
 (2) 自普請 壱
 五 安政の川除普請 壱
 (1) 安政二年の普請 壱
 (2) 安政三年の普請 壱
 (3) 安政五年の普請 壱

市田の被災 壱
 満水に付き御届書 壱
 領内渴命の者救米 壱
 百姓共に申聞覚 壱
 (4) 恩借米 壱
 (5) 永流反歩 壱
 (6) 山吹陣屋簡略の沙汰 壱
 (7) 飯田藩申渡覚 壱
 (8) 出砂原三界万靈塔 壱
 光明寺の石仏 壱
 史料断片 壱
 享保以後の水害 壱
 寛政の西満水 壱
 文化の子満水 壱
 六 文政の子満水 壱
 七 天保の水害 壱
 八 嘉永の水害 壱
 九 安政の水害 壱
 一〇 万延の水害 壱
 一一 慶応元年の満水 壱
 一二 慶応四年の辰満水 壱

第三十一章 災害

第一節 水害 壱
 一 正徳以前の大水害 壱
 二 正徳の未満水 壱

第一節 水害 壱
 一 正徳以前の大水害 壱
 二 正徳の未満水 壱

第二節 気象・地変の災害

一 旱	害	四教 済 策
(+) 雨	乞	1 飯田藩の救済
1 不動滝にて雨乞		2 山吹役所の救済
2 瑞璃寺の青獅子		3 非常事態の警戒
3 諏訪の御神水		(国) 天保七年の諸物価
二 冷	害	
三 風	害	
四 地震・噴火		
第三節 凶作・飢饉		
一 天明の飢饉		
(+) 全国・信濃の概況		
(+) 暴徒の蜂起		
(+) 当地の実状		
(+) 天明三年の諸物価		
(+) 当地飢饉への疑念		
1 自彌神社本殿の建築		
2 西国巡礼の旅		
3 西国四国巡礼の大旅行		
二 天保の飢饉		
(+) 天保四年の大凶作		
(+) 天保七年の大凶作		
1 へい竹の実取り		
当地大凶作の記録		

第三十二章 宗 教		
第一節 禁 教		
一 切支丹訴人の褒賞		
二 宗旨改・寺請		
三 不受不施派の禁制		
第二節 朱印地・除地		
一 朝日受永の寄進状		
第三節 神仏混淆		
一 当地に於ける実例		
(+) 瑞璃寺と日吉山王權現		
(+) 光明寺觀音堂の三十番神		

第四節 寺院

2 法成院

一 大島山瑠璃寺……………

九四

寺

(1) 松岡氏との関係……………

九四

(2) 大永の禁制……………

九四

末

寺

寺

(3) 武田信玄の条目……………

九四

1 正覺院と上杉輝虎……………

九四

2 正覺院の瑠璃寺兼帶……………

九四

3 正覺院と武田信玄……………

九四

(4) 朝日受永の寄進状……………

九四

(5) 故地堂所へ移転……………

九四

1 小笠原秀政の撫

九四

2 恵性坊の堂塔……………

九四

3 堂所の堂塔……………

九四

(6) 恵性坊へ再移転……………

九四

1 再移転の必要……………

九四

(7) 御朱印状……………

九四

1 千村平右衛門の添状……………

九四

2 御朱印九通……………

九四

3 御朱印地……………

九四

(8) 塔頭……………

九四

(1) 境内・山林……………

九四

1 全性院……………

九四

1 如來寺

寺

(1) 宝曆の末寺覚書……………

九四

(2) 明治の離末……………

九四

(3) 如來寺の御朱印……………

九四

2 妙福寺……………

九四

(4) 山内建造物……………

九四

1 藥師堂の再建……………

九四

(1) 再建の勧化……………

九四

(2) 普請の竣工……………

九四

(3) 元文の修復……………

九四

2 其他の堂宇……………

九四

3 石仁王・六地蔵……………

九四

(4) 御開帳……………

九四

1 最初の御開帳……………

九四

2 累次の御開帳の模様……………

九四

3 歴代住職……………

九四

(5) 伊那西国札所……………

九四

二 松岡山安養寺……………

九四

(6) 天正の兵燹……………

九四

(7) 御朱印状……………

九四

1 長久寺の釣御朱印……………

九四

(三) 中興別伝禪師	2 御朱印地	1001
1 本堂・庫裡の建立		1001
(四) 御朱印の訴訟		1001
(五) 本末の公事		1004
(六) 再中興		1004
1 本堂の再建	2 梵鐘の鋸造	1004
(一) 鐘 銘		1005
(二) 荒神堂		1005
1 元禄再建の棟札		1007
2 過去帳の記録		1008
3 社家との出入		1009
(一) 安養寺の願書の覚		1009
(2) 瑞應寺の暖		1010
(八) 歴代住職		1010
1 雲龍山松源寺		1011
(一) 龍潭寺との法縁		1011
1 井伊直親の松源寺潜居		1011
2 井伊直政と松源寺		1011
(1) 直政の遺留品		1013
3 松岡氏と井伊氏		1013
4 龍潭寺和尚請待		1013
(1) 開山二百年大遠忌法要		1013
(2) 享保十九年の請待	(3) 天保五年の請待	1024
(四) 天正の兵燹と再興	御朱印状	1024
(五) 本末の公事	御朱印の訴訟	1024
(六) 廣政の松源寺絵図	本末の公事	1026
1 庫裡・方丈の再建	堂宇の建築	1027
2 寄進者の数		1029
3 山門の改築		1029
(一) 梵鐘の鋸造		1029
1 檀家一老人半金施主		1029
2 寄進者の数		1029
3 錄物師		1029
4 鐘 銘		1029
(八) 歴代住職		1031
1 暖による内済		1031
(一) 歴代住職		1031
(二) 吉城山光尊寺		1031
(三) 中興		1031
(四) 寺地の移転		1031
(五) 廣政の松源寺絵図		1031
(六) 廣政の松源寺絵図		1031
1 本堂	觀音堂	1031

<p>3 鐘 樓</p> <p>(四) 航鐘の铸造.....[03]</p> <p>1 鐘 銘.....[03]</p> <p>(二) 石碑・石仏.....[03]</p> <p>2 六字名号碑.....[03]</p> <p>3 六地像石像.....[03]</p> <p>(二) 三十三觀音石像.....[03]</p> <p>(内) 伊那西国札所.....[03]</p> <p>(内) 歷代住職.....[03]</p> <p>五 葩王山明永寺</p> <p>(一) 沿革概要.....[03]</p> <p>(二) 中興可円律師.....[03]</p> <p>1 净 土 律</p> <p>2 明永寺の興律開祖.....[03]</p> <p>(二) 梵 鐘.....[03]</p> <p>(四) 住 職.....[03]</p> <p>六 真光山宝泉寺</p> <p>(一) 沿革概要.....[03]</p> <p>(二) 千 仏 堂.....[03]</p> <p>(三) 平田学徒賢亮.....[03]</p> <p>(四) 住 職.....[03]</p> <p>七 明 照 寺</p> <p>(一) 沿革概要.....[03]</p> <p>(二) 吞竜上人勸請.....[03]</p>	<p>八 座光寺領法寺</p> <p>(二) 開創・本山.....[03]</p> <p>1 天正二年開創説の誤.....[03]</p> <p>(二) 座光寺氏の菩提所.....[03]</p> <p>(二) 本山谷中感応寺.....[03]</p> <p>(二) 天台に改宗.....[03]</p> <p>(内) 不受不施改宗の歴史.....[03]</p> <p>(二) 本山感応寺の改宗.....[03]</p> <p>3 領法寺の天台改宗.....[03]</p> <p>(内) 引直末寺.....[03]</p> <p>1 門徒跡より引直の願書</p> <p>2 輪王寺宮の執達.....[03]</p> <p>(二) 真然法印の客逝.....[03]</p> <p>(二) 領法寺と海侃.....[03]</p> <p>1 海侃の出家・發憤</p> <p>2 錦衣還鄉.....[03]</p> <p>(1) 感應寺第十一世.....[03]</p> <p>(2) 海侃の帰郷.....[03]</p> <p>(3) 江戸帰府.....[03]</p> <p>3 資堂金寄附</p> <p>(1) 一旦破約の事情.....[03]</p> <p>(2) 約諾通り寄附.....[03]</p>
--	--

(外) 本堂の再建.....	〇四四
(内) 梵 鐘 銘.....	〇四五
(内) 歴代住職.....	〇四五
1 鐘 銘.....	〇四五
(内) 縁 起.....	〇四六
(内) 鳥居と座光寺氏.....	〇四七
九 普門山隣政寺.....	〇四七
(内) 隣政寺と座光寺氏.....	〇四七
1 座光寺為実の再建.....	〇四八
2 座光寺氏の崇敬.....	〇四八
(内) 天台に改宗.....	〇四九
(内) 蓮仏の奇瑞.....	〇五〇
(内) 引直末寺.....	〇五〇
(内) 堂宇の建立.....	〇五〇
1 安永の焼失.....	〇五〇
2 本堂の再建.....	〇五〇
(内) 真澄遊覽記の一節.....	〇五〇
2 百姓日記の記事.....	〇五〇
3 蚕種焼失の珍事.....	〇五〇
4 蚕 玉 堂.....	〇五〇
(1) 児玉明神の御遷宮.....	〇五〇
(2) 明治の焼失と再建.....	〇五〇
1 明治の火災.....	〇五〇
原因—放火と判明.....	〇五三
(外) 本堂の再建.....	〇五六
1 本堂建築の記録概要.....	〇五六
2 大工木曾龜.....	〇五六
(1) 坂田亀吉の死去.....	〇五六
(2) 彫刻師立川種清.....	〇五六
3 彫刻師立川種清.....	〇五六
(内) 鐘樓門の再建.....	〇五六
(内) 戒壇不動.....	〇五六
(内) 巡礼札所.....	〇五六
(内) 六地藏.....	〇五六
(内) 三十三觀音.....	〇五六
(内) 歴代住職.....	〇五六
(内) 如説山光明寺.....	〇五六
(内) 縁 起.....	〇五六
1 立法寺移建說.....	〇五六
2 座光寺為治開基說.....	〇五六
3 座光寺為実開基說.....	〇五六
4 結 語.....	〇五六
(内) 観音堂の建立.....	〇五六
1 堂内三十番神.....	〇五六
(内) 天台に改宗.....	〇五六
1 延宝八・正徳五年説の否定.....	〇五六
2 宝永初年の彫造.....	〇五六

3 作者空幻上人	境内に關する出入
(4) 大仏殿の建立	(=) 松源寺の隠居地
1 願主座光寺為忠	(=) 西国二十六番・開扉
2 大仏殿建立由来記	
3 大仏の再彩色	
(4) 御 経 堂	
(4) 引直末寺	
(8) 鐘樓・梵鐘	
(9) 明治の火災	
(9) 光明寺年中行事	
(4) 巡礼札所	
(4) 歴代住職	
一 吉田村立法寺	
一 関係史料	
1 本山感應寺の書面	
2 天台改宗の証文	
一 吉田の寺地	
二 駒場村長福寺	
三 上平村の古寺	
一 遺 物	
寺 地	
第五節 庵 寺	
一 間ヶ沢觀音堂	
二 中村十王堂	
三 西ノ沢十王堂	
四 牛牧村薬師堂	
五 牛牧村十王堂	
六 牛牧村無縁堂	
七 原町觀音堂	
八 原町薬師堂	
九 吉田村十王堂	
一〇 駒場村觀音堂	
一一 宝曆の再建	
一二 大空律師の寓居	
一二 巡礼札所	
一二 上平村觀音堂	
二一 安永の再建	
二一 奉加勸進	
二一 勸進主宗馨	

二	下平觀音堂	主庵	一〇八三
(一)	創立並觀音像		一〇八四
(一)	沿革概要		一〇八五
一三	小沼觀音堂		一〇八六
(一)	縁起		一〇八七
(一)	大日如來の御手		一〇八八
1	作者木食但唱		一〇八九
2	仏手庵の由来		一〇九〇
(一)	延宝の再建		一〇九一
(四)	明和の移転再建		一〇九二
1	再建勸化疏		一〇九三
(四)	宗馨上人の入庵		一〇九四
1	宗馨の寺請状		一〇九五
2	領主為忠の厚遇		一〇九六
3	宗馨の事蹟		一〇九七
(一)	巡礼札所		一〇九八
(一)	火災・再建		一〇九九
一四	竜口村觀音堂		一一〇〇
第六節 神社			一一〇一
一	萩山神社		一一〇二
(一)	創建		一一〇三
(一)	焼失・再建		一一〇四
二	牛牧神社	創建	一一〇五
(一)	荒神社合併		一一〇六
(一)	境内諸設備		一一〇七
三	伊勢神社	創建	一一〇八
(一)	再建・葺替		一一〇九
(一)	御柱		一一〇一〇
(一)	社号改正		一一〇一〇
(一)	末社		一一〇一二
(一)	境内諸設備		一一〇一二
一	御斗帳	創建・社号	一一〇一三
(一)	末社		一一〇一四
(一)	本殿の再建		一一〇一五
(一)	拝殿の改築		一一〇一六
1	弘安の焼失	2 寛永焼失・承応再建	一一〇一七
2	寛永焼失・承応再建	除地	一一〇一八
(一)	林播磨との出入		一一〇一九
1	取暖にて和熟		一一〇二〇
(一)	御柱		一一〇二一
(一)	御射山社		一一〇二二
(一)	松岡靈社		一一〇二三
(一)	末社		一一〇二四
(一)	社		一一〇二五
(一)	境内諸設備		一一〇二六
(一)	荒神社合併		一一〇二七
(一)	境内諸設備		一一〇二八
(一)	御柱		一一〇二九
(一)	社号改正		一一〇三〇
(一)	末社		一一〇三一
(一)	境内諸設備		一一〇三二

(六) 荒神社合祠	一〇四	(一) 祭神出早雄命	一一一
1 荒神社の由緒	一一〇	(二) 末社	一一六
2 合祠記念碑	一一五	(三) 御旗	一一七
(七) 境内諸設備	一一五	(四) 境内諸設備	一一八
(四) 吉田神社	一一六	(五) 大宮と座光寺氏	一一九
(一) 創建	一一六	(六) 大宮三社の造営	一二〇
(二) 貞享の再建	一一七	(七) 社号の変遷	一二一
(三) 寛政の再建	一一七	(八) 山吹神社	一二二
1 建立勅化	一一七	1 泰山神社	一二三
2 請負手形	一一八	2 泰山神社	一二四
3 杜殿の形態	一一八	(九) 長治(座光寺為治)の作	一二五
(四) 拝殿の建立	一一九	(一〇) 境内諸設備	一二六
(四) 奉納煙火	一二〇	(一一) 祭神木花開耶姫命	一二七
(四) 末社	一二〇	(一二) 子安参り	一二八
(四) 境内諸設備	一二〇	(一三) 獅子舞	一二九
(八) (附)吉田村神名宮祠	一二一	(一四) 獅子舞	一二九
(五) 日吉神社	一二三	(一五) 祭神	一二九
1 祭神大山咋神	一二三	(一六) 本殿の建築	一二九
(一) 創建	一二三		
(二) 移転	一二四		
(三) 五社權現	一二四		
(四) 獅子舞	一二五		
(五) 獅子の由来	一二五		
(四) 境内諸設備	一二六		

1	請合証文	二三
2	大工立川和四郎	二六
3	普請の概要	二七
(一)	宝物緋威鑑	二六
(二)	紅葉の森	二六
(三)	境内諸設備	二元
一〇	八幡神社	二元
(一)	相殿	二元
(二)	創立	二元
(三)	相殿	二元
(四)	分知座光寺氏の崇敬	二元
(五)	末社	二元
(六)	瑞垣石垣の築造	二元
(七)	境内諸設備	二元
一一	建御名方神社	二元
(一)	創立	二元
(二)	本殿・末社	二元
(三)	神楽殿の建築	二元
一二	菅原神社	二元
(一)	創立	二元
(二)	三柱相殿	二元
(三)	焼失・再勧請	二元
一三	諏訪神社	二元
(一)	創立	二元
(二)	境内の仏堂	二元

第七節 其他の宗教

一	神道	二元
(一)	御嶽教	二元
二	修驗道	二元
1	松下平九郎	二元
2	西村惣八	二元
三	民間諸信仰	二元
(一)	秋葉山大権現	二元
1	牛牧村の秋葉塔	二元
2	下市田村北村の秋葉塔	二元
3	秋葉山太々講	二元
(一)	金毘羅大権現	二元

請合証文

1

大工立川和四郎

2

普請の概要

3

宝物緋威鑑

(一)

紅葉の森

(二)

境内諸設備

(三)

八幡神社

一〇

相殿

(一)

創立

(二)

相殿

(三)

分知座光寺氏の崇敬

(四)

末社

(五)

瑞垣石垣の築造

(六)

境内諸設備

(七)

建御名方神社

一一

相殿

(一)

創立

(二)

本殿・末社

(三)

神楽殿の建築

(四)

菅原神社

(五)

相殿

(六)

本殿・末社

(七)

神楽殿の建築

(八)

菅原神社

(九)

相殿

(一〇)

燒失・再勧請

(一一)

諏訪神社

(一二)

創立

(一三)

境内の仏堂

(一四)

一四	境内諸設備	二元
一四	天照大神社	二元
一四	本殿の建築	二元
(一)	相殿の祭神磐長比売命	二元
(二)	末社・境内諸設備	二元
(三)	当社と増野	二元
(四)	本殿・末社	二元
(五)	芝宮神社	二元
(六)	境内諸設備	二元

一四	境内諸設備	二元
一四	天照大神社	二元
一四	本殿の建築	二元
(一)	相殿の祭神磐長比売命	二元
(二)	末社・境内諸設備	二元
(三)	当社と増野	二元
(四)	本殿・末社	二元
(五)	芝宮神社	二元
(六)	境内諸設備	二元

一四	境内諸設備	二元
一四	天照大神社	二元
一四	本殿の建築	二元
(一)	相殿の祭神磐長比売命	二元
(二)	末社・境内諸設備	二元
(三)	当社と増野	二元
(四)	本殿・末社	二元
(五)	芝宮神社	二元
(六)	境内諸設備	二元

一四	境内諸設備	二元
一四	天照大神社	二元
一四	本殿の建築	二元
(一)	相殿の祭神磐長比売命	二元
(二)	末社・境内諸設備	二元
(三)	当社と増野	二元
(四)	本殿・末社	二元
(五)	芝宮神社	二元
(六)	境内諸設備	二元

(一) 文政十年金毘羅参り.....	一一四	毘沙門天
(二) 金毘羅道中記.....	一一五	遍照金剛
(三) 観世音菩薩.....	一一六	蚕玉神
(四) 伊那西国巡礼.....	一一七	金山彦神
(五) 市田・山吹の札所.....	一一八	庚申・青面金剛
(六) 巡礼供養塔.....	一一九	庚申講
(七) 馬頭観世音.....	一二〇	青面金剛
(八) 古い馬頭観音石仏.....	一二一	天王
(九) 地藏菩薩.....	一二二	天王
(一〇) 六地藏.....	一二三	天王
(一一) 菩提如來.....	一二四	天王
(一二) 弥勒菩薩.....	一二五	天王
(一三) 津島牛頭天王.....	一二六	天王
(一四) 身延山.....	一二七	天王
(一五) 熊野権現.....	一二八	天王
(一六) 富士浅間社.....	一二九	天王
(一七) 三峰権現.....	一三〇	天王
(一八) 稲荷大明神.....	一三一	天王
(一九) 白山権現.....	一三二	天王
(二〇) 不動明王.....	一三三	天王
(二一) 九頭龍権現.....	一三四	天王
(二二) 摩利支天.....	一四五	天王
(二三) 妙見大菩薩.....	一五六	天王
(二四) 七面大菩薩.....	一五七	天王

第三十三章 学芸・教育

第一節 学芸

(一) 牛牧村酒呑原の井祭.....	一一一	毘沙門天
(二) 風の神.....	一一二	遍照金剛
(三) 御鍬神.....	一一三	蚕玉神
(四) 伊雑宮.....	一一四	金山彦神
(五) 鬼子母神.....	一一五	庚申・青面金剛
(六) 半僧坊.....	一一六	庚申講

一 山吹の学芸勃興.....	二 澄月の追善和歌.....
(+) 座光寺為忠.....	2 澄月の追善和歌.....
1 澄月に入門・歌道興隆.....	1 安楽院騒動.....
2 為忠の人物評.....	2 当地方文人との交遊.....
(+) 片桐八郎太夫.....	(+) 天遊.....
1 文武の修業.....	1 天遊の漢詩.....
2 軍学を学ぶ.....	2 融通念佛会.....
(+) 歌僧の来遊.....	(附) 宗馨.....
1 性山.....	1 桃沢夢宅の影響.....
2 瑞璃寺の住職.....	2 山吹の門人.....
3 山吹での事蹟.....	(+) 影響を知り得る史料.....
4 性山の和歌.....	1 片桐家文書より.....
5 性山の漢詩.....	2 堀尾家文書より.....
(+) 澄月.....	(+) 夢宅の伝書.....
1 垂雲軒澄月上人略伝.....	1 春樹頤秘増抄.....
2 澄月来遊の年代.....	2 詠歌大本三義十一箇大事.....
3 和歌指導の実際.....	3 詠歌大本階梯卷.....
4 澄月の和歌.....	4 歌人.....
5 澄月の漢詩.....	(+) 座光寺兼(深信院).....
6 澄月の法語.....	(+) 座光寺為明.....
(+) 待雲.....	(+) 座光寺久(作福院).....
雲.....	(+) 座光寺為瓊.....
1 片桐源栄との交遊唱和.....	(+) 片桐直賢.....

(内) 荒井尚雅	二三	(内) 座光寺為寿	二三	(内) 座光寺列	三三
(内) 石神琴	二三	(内) 座光寺ハナ(豊寿院)	二三	(内) 竹中信恕	三三
(内) 座光寺林(長松院)	二三	(内) 其他の歌人	三三	(内) 座光寺為忠	三三
(内) 片桐源栄	二三	(内) 垣	三三	(内) 天遊	三三
2 源栄の和歌とその環境	二三	1 歌道に精進・練達	二三	1 性山	三三
(1) 垣	二三	2 源栄の和歌とその環境	二三	2 海侃	三三
(2) 垣	二三	(1) 垣	二三	(内) 片桐源一	三三
(3) 源栄文集より	二三	(2) 垣	二三	1 環境—儒学の影響	三三
平栗忠穀	二三	(3) 垣	二三	2 師岡田南涯	三三
佐伯玄冲	二三	(4) 垣	二三	3 尊王心の片鱗	三三
広 観	二三	(5) 垣	二三	4 詠梅百首詩歌	三三
1 領法寺の中興	二三	(内) 座光寺為巳	二三	5 秋興百絶	三三
海 侃	二三	(内) 片桐源一	二三		
象	二三	1 片桐源一の長歌	二三		
片桐源一	二三	2 左茶菴記	二三		
1 中年より和歌を学ぶ	二三	(内) 筑井諒	二三		
2 源一の和文和歌	二三	六 俳 句	二三		
兄源一との歌合	二三	1 片桐源一	二三		
堀尾直馨	二三	2 左茶菴記	二三		
片桐里乃	二三	(内) 筑井諒	二三		
座光寺為巳	二三	七 書道	二三		
	二三	八 片桐蘭沢	二三		

1 師関其寧

(1) 片桐源栄 1120
(2) 片桐源一 1130(1) 片桐春一 1140
(2) 片桐八郎太夫 1150(1) 片桐源一郎 1160
(2) 片桐春一郎 1170(1) 佐伯貴憲 1180
(2) 佐伯貴憲 1190

八 絵 画

(1) 座光寺為忠 1200
(2) 座光寺為忠 1210(1) 片桐源一 1220
(2) 片桐源一 1230

九 狂 歌

(1) 片桐源一 1240
(2) 片桐源一 1250(1) 性 山 1260
(2) 性 山 1270

一〇 算 法

(1) 八重葎繁屋道主 1280
(2) 八重葎繁屋道主 1290(1) 飯島保信の算額 1300
(2) 飯島保信の算額 1310

一一 心 学

(1) 山吹市田の算学門人 1320
(2) 山吹市田の算学門人 1330(1) 堀尾直馨著 夢問答 1340
(2) 堀尾直馨著 夢問答 1350

一二 夢問答の概要

(1) 源栄の序文 1360
(2) 源栄の序文 1370

第二節 教 育

一 士人の教育

(1) 飯田藩の教育 1380
(2) 飯田藩の教育 1390

二 山吹家中の教育

(1) 藩 学 1400
(2) 藩 学 1410

1 座光寺為忠

(1) 片桐源栄 1420
(2) 片桐源一 1430

2 遊 学

(1) 片桐八郎太夫 1440
(2) 片桐春一郎 1450

3 家 学

(1) 片桐氏の家学 1460
(2) 片桐源一 1470

二 庶民の教育

1 四書の講釈

(1) 寺子屋 1480
(2) 寺子屋 1490

2 大洞市左衛門

(1) 橋都与右衛門 1500
(2) 橋都与右衛門 1510

3 片桐市之丞

(1) 上沼元仙 1520
(2) 上沼元仙 1530

4 中村勇藏

(1) 平栗忠毅 1540
(2) 平栗忠毅 1550

5 田切喜右衛門

(1) 高橋半蔵 1560
(2) 高橋半蔵 1570

6 関川弥治右衛門

(1) 香道楚鞋 1580
(2) 香道楚鞋 1590

7 中塚源左衛門

(1) (1) 笔子名 1600
(2) (2) 笔子名 1610

大洞善次郎

三四六

第一節 人間生活

三四五

大洞庄五郎

三四九

三沢眠碩

三九九

中村与三左衛門

三九九

全性院

三九九

後沢藤左衛門

三九九

原伝左衛門

三九九

中塙量平

三九九

島岡源吾

三九九

20 城子甚三

三九九

(1) 中村元起に入門

三九九

(2) 筆子名

三九九

上沼貞造

三九九

(1) 奉納紀念額

三九九

21 原伝右衛門

三九九

22 龍河義誠

三九九

23 加藤敬祐

三九九

24 清水作四郎

三九九

25 宮原祐善

三九九

26 清水実念

三九九

田切源一郎

三九九

一教養

(一) 明治教育勃興の地盤

1 高野家藏書

2 吉川家藏書

3 下井家藏書

4 関川家藏書

5 中村家藏書

6 内伝聞

7 貸本(借本)

8 遊学

9 話し言葉

10 葉彙

11 語彙

12 仰

13 仰

14 仰

15 仰

16 仰

17 仰

18 仰

19 仰

20 仰

21 仰

22 仰

23 仰

24 仰

25 仰

26 仰

27 仰

28 仰

29 仰

1 原町妙法講

2 秋葉山太々講

1 巡礼供養塔

2 巡礼廻國

(回) 建碑	1 石神石仏	内 操芝居
2 名号碑	(1) 名僧揮毫の名号碑	(2) 軍書読
3 経典供養塔	2 百万遍供養塔	的 囲碁・将棋
4 六部廻國供養塔	3 精靈供養塔	其他諸芸能
5	4 無縁塔	1 万歳
6	5 無縁塔	2 猿屋芝居
7	6 無縁塔	3 味線
四 労働	7 無縁塔	4 踊
(回) 神仏行事	8 無縁塔	5 ちよんがれ
(回) 願懸・願果し	9 無縁塔	6 祭文
五 娯樂	10 無縁塔	7 かげ人形
(回) 日記所見の諸労働	11 無縁塔	8 手づま
(回) 公儀の制禁	12 無縁塔	9 かるわざ
(回) 狂言	13 無縁塔	(回) 物見遊山
1 旅狂言	14 無縁塔	1 飲食
2 地狂言	15 無縁塔	2 振舞
3 寄狂言	16 無縁塔	3 川殺生
(回) 角力	17 無縁塔	4 気り
1 江戸大角力	18 無縁塔	5 痘病
2 角力上覧	19 無縁塔	6 痘瘡
3 小石川音治郎	20 無縁塔	7 痘瘡
(回) 花火	21 無縁塔	8 痘瘡

1 痘病	2 痘瘡	3 痘瘡	4 痘瘡	5 痘瘡	6 痘瘡	7 痘瘡	8 痘瘡	9 痘瘡	10 痘瘡	11 痘瘡	12 痘瘡	13 痘瘡	14 痘瘡	15 痘瘡	16 痘瘡	17 痘瘡	18 痘瘡	19 痘瘡	20 痘瘡	21 痘瘡	22 痘瘡	23 痘瘡	24 痘瘡	25 痘瘡	26 痘瘡	27 痘瘡	28 痘瘡	29 痘瘡	30 痘瘡	31 痘瘡	32 痘瘡	33 痘瘡	34 痘瘡	35 痘瘡	36 痘瘡	37 痘瘡	38 痘瘡	39 痘瘡	40 痘瘡	41 痘瘡	42 痘瘡	43 痘瘡	44 痘瘡	45 痘瘡	46 痘瘡	47 痘瘡	48 痘瘡	49 痘瘡	50 痘瘡	51 痘瘡	52 痘瘡	53 痘瘡	54 痘瘡	55 痘瘡	56 痘瘡	57 痘瘡	58 痘瘡	59 痘瘡	60 痘瘡	61 痘瘡	62 痘瘡	63 痘瘡	64 痘瘡	65 痘瘡	66 痘瘡	67 痘瘡	68 痘瘡	69 痘瘡	70 痘瘡	71 痘瘡	72 痘瘡	73 痘瘡	74 痘瘡	75 痘瘡	76 痘瘡	77 痘瘡	78 痘瘡	79 痘瘡	80 痘瘡	81 痘瘡	82 痘瘡	83 痘瘡	84 痘瘡	85 痘瘡	86 痘瘡	87 痘瘡	88 痘瘡	89 痘瘡	90 痘瘡	91 痘瘡	92 痘瘡	93 痘瘡	94 痘瘡	95 痘瘡	96 痘瘡	97 痘瘡	98 痘瘡	99 痘瘡	100 痘瘡
------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

3 諸 痘	二五三
病	二五四
一 家 族	二五四
(-) 人 員	二五四
(-) 厄 介	二五四
2 長 寿 者	二五四
1 長 寿 者の祝福	二五四
2 梅乃木賢亮の祝歌	二五四
二 氏 名	二五四
(-) 苗 字	二四五
1 百姓に苗字有り	二四五
(1) 安永年間上平の苗字	二四五
(2) 安政年間大島山の苗字	二四五
(3) 其他の使用例	二四五
三 家 紋	二四五
1 男 の 名	二四五
2 女 の 名	二四五
(-) 名 前	二四五
1 植物の名	二四五
2 動物の名	二四五
3 物の名・所の名	二四五
4 季節・時刻・気象・順序	二四五
5 下によるつくるもの	二四五
四 重	二五五
1 松嶋の眼医者	二五五
2 高嶋の建木与右衛門	二五五
3 立 会 医	二五五

第二節 家庭生活

(4) 1 男 の 名	二五五
(3) 2 女 の 名	二五五
(2) 1 植物の名	二五五
(1) 動物の名	二五五
物の名・所の名	二五五
季節・時刻・気象・順序	二五五
下によるつくるもの	二五五

(6) 下にゑ・江のつくもの.....	一一四
(7) 下にののつくもの.....	一一五
(8) 下にのふ・のうのつくもの.....	一一六
3 改 名.....	一一七
(1) 謂による改名.....	一一八
(2) 家の事情による改名.....	一一九
4 裳 名.....	一二〇
(一) 年 齢.....	一二一
1 男の結婚年齢.....	一二二
2 女の結婚年齢.....	一二三
(二) 肝 煎.....	一二四
(三) 婚 儀.....	一二五
1 算入の一例.....	一二六
2 嫁の荷物.....	一二七
3 祝客多数の例.....	一二八
(四) 離 緑.....	一二九
1 不 熟.....	一三〇
2 離縁送り一札.....	一三一
3 子供の処置.....	一三二
(1) 乳 吞 子.....	一三三
(2) 男の子と女の子.....	一三四
(3) 伴勘当の場合.....	一三五
(4) 再婚の連子.....	一三六

四 人 別.....	一一九
(1) 隠 居.....	一二〇
(2) 隠 居 家.....	一二一
1 雜多の事情.....	一二二
2 深刻な哀話.....	一二三
(一) 勘 当.....	一二四
1 勘当者の御触.....	一二五
2 深刻な哀話.....	一二六
(一) 欠 落.....	一二七
1 欠落哀話.....	一二八
(四) 捨 子.....	一二九
1 村中廻り養育.....	一二一〇
2 捨子の着物・お守.....	一二一一
(五) 葬 儀.....	一二一〇
(一) 死 亡.....	一二一〇
1 妻女の臨終記.....	一二一〇
(二) 葬 式.....	一二一〇
1 役 附.....	一二一〇
(1) 寛政の役附.....	一二一〇
(2) 嘉永の役附.....	一二一〇
(一) 法 要.....	一二一〇
2 見 舞 品.....	一二一〇
1 初 七 日.....	一二一〇

2	淋 見 舞	三八
3	三十五日	三八
4	新 盆	三八
5	百ヶ日	三九
(4)	火 消	三五
(4) (3)	火 灯籠等の奉獻	三四
(4) (2)	火 消議定書	三四
1	若 者	二一
2	若者仲間への加入	二一
1	若者連中の仕事	二四
	祭礼等の奉仕	二四
	石燈籠等の奉獻	二四
2	階 層	二一
3	抬 頭	二一
2	平 出	二一
1	闕 字	二一
(4)	書 式	二〇
(4)	譯	二〇
(4)	上下の差別	二〇
(4)	家門の誉	二〇
2	御 停 止	二〇
(4)	領主と領民	二〇
(4)	事 变	二〇
(4)	請 人	二〇
(4)	騒 動	二〇
3	共 同 生 活	二〇
(4)	中 老 前 小	二〇
3	地 狂 言	二五
3	若者連の反撃	二五
3	中 老 前 小	二五
1	騒動の概要	二九
(1)	下市田村庄屋の口上書	二九
(2)	出原村鈎頭の口上書	二九
1	千人講騒動	二九
(1)	盗 賊	二九
1	盜品の衣類	二九
(4)	殺 人	二九
1	文政の変死人一件	二九
(4)	牢 抜	二九
1	延享・文化の火災	二九
2	文政の原町大火	二九
3	慶応の原町大火	二九
4	火 消 經 番	二九
5	火 消 人 足	二九

7 消火申合議定書	6 夜廻り
6 美談	7 賞
5 美褒	6 罷罪
4 美談錄	5 罷罪
3 罷科	4 罷科
2 罷契	3 罷契
1 罷酒	2 罷鐵砲
1 罷狂言	1 罷造
2 罷隠	2 罷隠
3 罷所	3 罷狂言
4 罷入	4 罷隠
5 罷戸	5 罷狂言
6 罷手	6 罷隠
7 罷叱	7 罷狂言
(一) 恩	(二) 刑罰
1 正月	2 特赦
2 松門	3 故訴
3 行事	4 故料
4 中	5 故払
5 門	6 故錆
6 松	7 故牢
7 正月	8 故メ
(一) 恩	9 故メ
1 正月	10 故メ
2 松門	11 故メ
3 行事	12 故メ
4 中	13 故メ
5 門	14 故メ
6 松	15 故メ
7 正月	16 故メ
(一) 恩	17 故メ
1 正月	18 故メ
2 松門	19 故メ
3 行事	20 故メ
4 中	二月
5 門	二十日節句
6 松	
7 正月	
(一) 恩	
1 正月	
2 松門	
3 行事	
4 中	
5 門	
6 松	
7 正月	
4 春の彼岸	3 初節分
3 事始	2 初月
2 始	1 節
1 事	20 初年
1 年	19 初年
2 正月	18 小豆粥・鳥追
3 松門	17 馬屋の祈禱
4 行事	16 ほんやり
5 中	15 小正月の年取
6 門	14 小正月の飾
7 松	13 御供開・若木迎
1 正月	12 七草粥
2 松門	11 六日年
3 行事	10 恵比須開
4 中	9 初湯
5 門	8 初年礼
6 松	7 初屠蘇
7 正月	6 初年詣
4 春の彼岸	5 雜年神
3 事始	4 烹煮
2 始	3 煮蘇
1 事	2 神蘇
1 年	1 神水

(三) 三月	1 上巳の節句	一 祀
(四) 四月	1 灌仏会	一 祀
(五) 五月	1 端午の節句	一 祀
(六) 六月	1 國祇	一 祀
(七) 七月	1 七月祭	一 祀
(八) 八月	1 孟蘭盆	一 祀
(九) 九月	1 重陽の節句	一 祀
(十) 十月	1 秋の彼岸	一 祀
(十一) 十一月	1 惠比須講	一 祀
(十二) 冬月	1 扱箸上げ	一 祀
	2 季子祝	一 祀
	3 恵比須講	一 祀
	1 御手伝金	一 祀
	2 陣屋の普請	一 祀
	3 阿部氏領の村々	一 祀
	1 市田仮役所	一 祀
	2 領内巡見	一 祀
	3 高札書替	一 祀

第三十五章 市田陣屋

第一節 領主の交替

一 堀氏の減封

(一) 市田住民の動向

(二) 飯嶋代官にお預け

(三) 牛牧村の分郷

二 街道筋持場

2 郷 藏

二 阿部氏の所替

(一) 阿部氏へ引渡し

第二節 市田陣屋の設置

第四節 南山騒動

一 原因

(一) 遠因

1 石代金納

2 天領復帰運動

(二) 直接原因

1 市田役所の苛政

2 歎願と所罰

3 講金と再歎願

4 江戸表歎願運動

二 一揆の勃発

(一) 原町相場の引揚

(二) 強訴一揆

1 徒党の蜂起

2 飯田藩の抑留

3 郡奉行との対決

三 結末

(一) 奉行の更迭

(二) 南山郷への処置

四 市田に残る記録

(二) 御手伝人足	二三〇
(二) 御手伝馬	二三〇
(二) 棟上	二三〇
(二) 陣屋へ引移	二三〇
(二) 陣屋の構造	二三〇
1 外廓	二三〇
2 門	二三〇
3 門長屋	二三〇
4 詰合役所	二三〇
5 小屋(役人住宅)	二三〇
6 附属建物	二三〇
7 其他の施設	二三〇

第三節 役人

一 陣屋の役人

(一) 元締	二三〇
(一) 郡奉行	二三〇
(一) 代官	二三〇
(一) 手代(小役人)	二三〇
(二) 同心(足輕)	二三〇
二 年番所	二三〇
三 御会釈之者	二三〇
四 郷宿	二三〇

第五節 幕末の動向

一 江戸市中御廻役

- 二 大阪警衛の不首尾 [三六]
 三 姶御門の変と白河藩 [三七]
 四 長州征伐と白河藩 [三八]
 (一) 武運長久祈願 [三九]
 五 棚倉へ所替 [三九]
 (二) 陣屋下村々廻方 [三九]
 六 棚倉へ所替 [三九]

- 五 棚倉へ所替 [三九]
 六 棚倉へ所替 [三九]

第六節 白河開拓地入植 [三九]

- 一 新開打起の目論見 [三九]
 二 開墾 [三九]
 三 入植 [三九]

第七節 奥羽征討と棚倉藩 [三九]

第八節 陣屋の撤廃 [三九]

- 一 伊那県管下に入る [三九]
 (一) 陣屋引渡し目録 [三九]
 二 陣屋の撤去 [三九]

第九節 陣屋址 [三九]

- 一 長野県史蹟に指定 [三九]
 二 遺跡 [三九]

附 言 [三九]

高森町史上卷編纂委員 [三九]

口絵写真（前篇）

高森町全景

松岡城址

山吹陣屋址

薬師三尊像

石仁王尊

宝篋印塔

瑠璃寺

梵綱經奥書

安養寺

(後篇)

元善光寺奉納算額

片桐家の茶室